

横芝の碑

(その九十四・下)

昔の街道と

町原村の庚申様

物語りを伝える

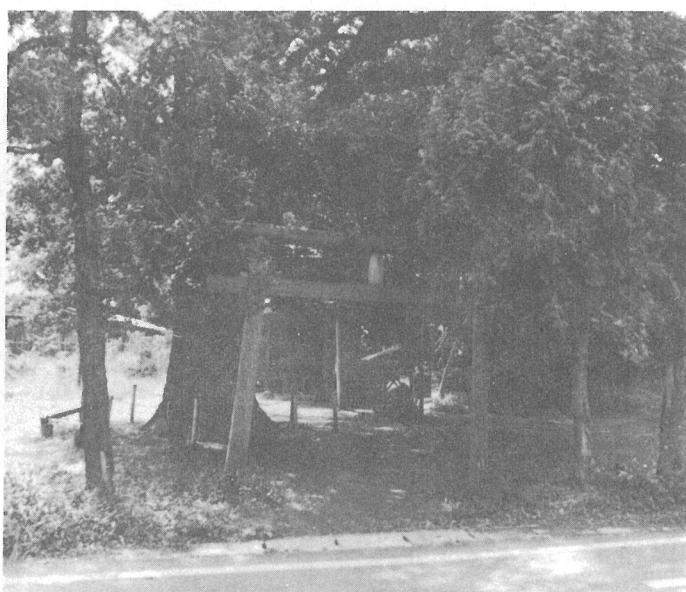
町原村、と刻まれた庚申様について、町原にお住まいの吉岡常二さんをお訪ねしてご指導を頂いています。この庚申様が、その六十でご紹介しました“追分の道標”に劣らない“昔の街道”に関することが分つて来たのです。

吉岡さんは「あの庚申様は昔はもつと道端に、あの向こうで建つていたそうです。庚申様の正面の道は、随分細くて粗末に見えます。が、実は、追分の道標に刻まれている、は・ま道の入口であり、姥山、桜前から、八街方面にも通じている大事な街道でもあつた訳です。

昔は、人馬の往来も烈しく、庚申様も度々倒されたり、転がされたりするので、私の先祖が屋敷内に移したのが今のが場所です。庚申の前から一〇〇m程入りますと、一本の山路が横切っています。この山路を左に曲ると、は・ま道、右に曲ると、八幡道になりますが、この辺りの人々は、両方を通して八幡道と呼んでいます。昔は立派

牛熊や木戸台に、こんな伝説があります。“昔、木戸台村の神様と、牛熊村の神様が戦いました。その豆が目に命中して木戸台村の神様は目がくらんでしまい、とうとう敗れてしまいました。それ以来木戸台村の人達は、誰も田畠豆を作らなくなりました。そして、いつとはなしに、お互いの村境を残っている筈です。参考に昔の街道を歩いて見ませんか、案内しま

すよ、は・ま道から逆に歩いた方がいいでしょう」と先に立たれました。は・ま道の入口というのは、振子坂を下る右側の中腹から、大総保育所の前を通り、旧役場の後の山路伝いに旧大総中の下を抜け、農協大総支所の辺りの山林から一度は県道に出て、今度は、木戸台と、牛熊の境界沿いに牛熊の八幡様に続いています。



▲ この社の裏の方を八幡道が通つてゐる

天明のころの古文書によりますと、木戸台村と町原村は同じ名主が支配していましたが、牛熊村の名主は別であったようです。そうしたことから、何か村同志の境界争いでもあつたのが、みこし浜下りの時に、木戸台村や町原村を避けて通る原因になったのかも知れません。それでも、今でも木戸台の人々の中では、田畠豆を作付けしない人が多いこと等に、その土地の風習等もうかがわれ、興味深いものがあります。また、牛熊の八幡様の、みこし浜下りが六十年目

毎であることと、ご縁年が六十年目毎に送つて来る庚申様が、浜みちの入口に建つてあること等にも、何か、因縁めいたものが感じられて“やはりこの庚申様は文字のない碑としても、価値があるものだなあ——”と感じたのです。

ともあれ、庚申様のお陰で、吉岡さんに、八幡道、は・ま道等の旧街道を確認させて頂けたことや、享保年間にも町原村が存在していたこと等が確認できたのですから、この庚申様は、やはり後世の人々に対しても碑として立派な価値を持つていると思います。

◎写真は、八幡道の通つている山林を県道から撮ったものです。この鳥居のずっと奥の辺りから、農協大総支所近くの県道に抜けていますが、吉岡さんにご案内頂かなければとても歩けない道筋でした。

町文化財審議会委員

小沢春光氏寄稿
(五五・七・三〇)

